

サツマイモ「兼六」の苗長が収量・品質に及ぼす影響

1 背景・目的

粘質系で甘みの強い「兼六」は、最近の干しいもブーム等を契機にまとまった面積を栽培する生産者も出始めている。青果用を主体とする栽培では、茎長 25cm の苗を用いるのが一般的であるが、加工・業務用向けのいもを栽培するための茎長 (苗長) は分かっていない。そこで、「兼六」の苗長がいもの収量や品質に及ぼす影響について検討する。

2 技術のポイント

- (1) 慣行苗 (苗長 25cm) より苗長の短い小苗は、生育期 (定植 91 日後) では、茎葉の生育は劣るが、収量は慣行苗と同等以上が得られる (表)。
- (2) 慣行苗より苗長が短くなるほど、いも肥大が優れ、加工に適した L 階級以上の収量が多くなり、慣行苗と同等の乾物率が得られる (表、図)。

表 苗長が生育・収量・品質に及ぼす影響

試験区	茎葉重	上いも ^Z 重 (g/株)	上いも数 (個/株)	上いも1個重 (g)	乾物率 ^Y (%)
	(g/株) 91日 ^X				
15cm苗	625 a ^U	1,544 a	5.0 a	362 b	32.9 b
20cm苗	496 a	1,400 a	6.2 a	232 a	31.4 a
25cm苗 (慣行苗)	1,192 b	1,242 a	6.3 a	192 a	31.1 a

^X 定植後日数

^Y 中庸な塊根の中央部を幅1cmに輪切りし、80℃の通風乾燥機で乾燥して求めた

^Z 1個50g以上のいも

^U 異符号間にTukeyの多重比較で5%水準の有意差あり (n=20)

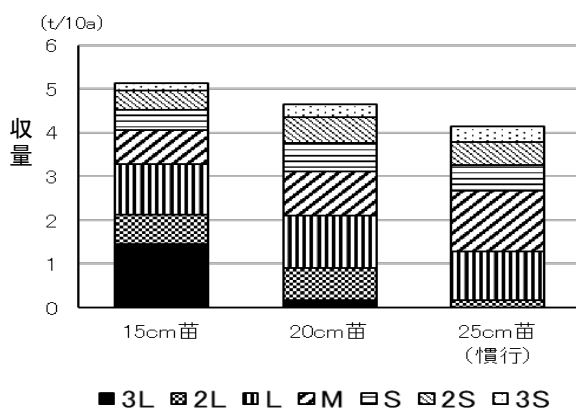


図 階級別換算収量 (定植 135 日後)

※ 階級区分は JA 全農いしかわ「さつまいも出荷規格」に準じる
(3L:800g 以上、2L:500-800g、L:330-500g、M:200-330g、
S:150-200g、2S:100-150g、3S:50-)

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 小苗は慣行苗よりも株当たりのいもの個数が少なくなり、加工作業がしやすいとされる短紡錘形、紡錘形のいもの割合が低い傾向がある。